

日頃よりご愛顧を賜りありがとうございます。「ちゅうキャリ通信」2021年3月号をお届けします。  
 今月は「石巻日日新聞」と「水の賞味期限」についてお届け致します。

## スタッフさんとの信頼づくりが一番！！

【東日本大震災から10年】 10年の時を経て我々が学んだ事

### ※「石巻日日（ひび）新聞」の活躍

石巻日日新聞は宮城県石巻市で約14,000部の夕刊紙を発行する地域新聞です。石巻市は震災による津波で大きな被害を受けました。（死者約3,000人）同社も停電や輸転機が水没するなど、新聞の発行が出来ない状況となりました。そのような状況下で「電気がなくても、紙とペンはある」と手書きの壁新聞を発行する事になりました。

3月12日～17日まで6日間に亘り、被害状況やライフラインの復旧状況、救難隊の到着状況など避難所にいる被災者の方に役に立つ情報を市内6か所に壁新聞として貼り出してきました。この壁新聞の情報に多くの被災者の方が勇気づけられたと思います。

災害が発生すると情報の収集が難しくなります。普段であれば些細な情報が緊急時には大変大きな役割を果たすことを学びました。



手書きの壁新聞

### ※「飲料水の賞味期限」の事

東日本大震災やそれ以前の阪神・淡路大震災の時もそうでしたが大きな自然災害時にはインフラ・ライフラインが大きな影響を受けます。そこで各自が緊急時の対応として3日間の備蓄品を準備するようになりました。その備蓄品の中にはペットボトルのミネラルウォーターが必ずあると思います。

そのミネラルウォーターはどのくらい経ったら新しいものと交換するの？  
 水の賞味期限は各ペットボトルに刻印がされております。

期限の過ぎた飲料水は何となく気持ち悪いと思われる方は賞味期限まで（ここでは2年を想定）の2L×6本を準備して貰い1年後に同量の水を購入。その後1年経過した所で新たに購入し常時2箱をストックし最初の6本を生活用水に使う方法はいかがですか？



防災備蓄は万全ですか？

### ●就業サポートセンタートピックス

今回の相談スタッフ（Yさん）は2月から事務職で入力業務や電話対応業務で派遣就業しています。相談内容は「電話が掛かってくると前の就業先の社名で電話に出てしまう。最初は周りも笑ってましたが、最近冷たい視線を感じる。」という事でした。

「新しい職場で緊張しているだけです。もし気になる様でしたらご家族に協力して貰って新しい社名で電話に出る練習をしてみたらどうですか。」と話をしたところ、数日後再び連絡がありました。「新しい会社名で電話に出られるようになりました。周りの雰囲気も良くなって嬉しい！！」と話してました。真摯な取り組み姿勢が緊張感に繋がりこんな事象になるケースはあります。

（Yさん）が元気になってくれよかったです！（喜）



相談風景

発行 社長室直轄 就業サポートセンター 担当 矢野  
 直通電話 070-4397-4966 メールアドレス [support@c-c-nt.com](mailto:support@c-c-nt.com)

